

つたへさせんと、うめきずんじつる歌もいとあさましくかひなく、いかにしつるならん、きのふさばかりありけん物をよのほどにきえぬらん事と、いひくんずれば、こもりが申つるは、きのふいとくらうなるまで侍き、ろくを給はらんと思ひつる物を、たまはらずなりぬる事と、手を打て申侍つると、いひさはぐに、内よりおほせ事ありて、扱雪はけふまで有つやと、のたまはせられたれば、いとねたく口をしけれど、年のうちついたちまでだにあらじと、人々啓し給ひし、きのふの夕ぐれまで侍しを、いとかしこしとなんおもひ給ふる、けふまではあまりの事になん、夜のほどに、人のにくがりてとりすて侍にやとなんをしはかり侍ると、啓せさせ給へときこえさせつ、さて二十日にまいりたるにも、まづ此事を御前にてもいふ、皆きえつとて、ふたのかぎりひきさげてもきたりつる、ぼうしのやうにて、すなはちまうできたりつるが、あさましかりし事もの、ふたにこ山うつくしうつくりて、白き紙にうたいみじくかきて、まいらせんとせし事などけいすれば、いみじくわらはせ給ふ、おまへなる人々もわらふに、かう心にいれておもひける事をたがへたれば、つみうらんまことには四日の夕さり、さぶらひどもやりて、とりすてさせしぞ、かへり事にいひあてたりしこそをかしかりしか、そのおきないできて、いみじう手をすりていひけれど、おほせ事ぞ、かのよりきたらん人にかうきかすな、さらば屋うちこぼたせんといひて、左近のつかさ南のついちのとにみなとりすてし、いとたかくておほくなんありつといふなりしか、げに二十日までもまちつけて、ようせずばことしの初雪にもふりそひなまし、うへ條○一にもきこしめして、いとおもひよりがたくあらがひたりと、殿上人などにもおほせられけり、さてもかの歌をかたれ、いまはかくいひあらはしつれば、おなじごとかちたり、かたれなど、御まへにものたまはせ、人々ものたまへど、なにせんに、かさばかりの事をうけ給はりながら、けいし侍らんなど、まめやかにうく、心うがれは、うへもわたらせたまひて、まことに年ごろは、おほくの人なめりと